

日交研シリーズ A-656
平成 27 年度自主研究プロジェクト
旅行時間信頼性の経済評価方法に関する研究
刊行：2016 年 5 月

旅行時間信頼性と利用者行動
Travel Time Reliability and User Behavior

主査：福田 大輔（東京工業大学大学院准教授）
Daisuke FUKUDA

要 旨

道路整備や料金施策による交通流の円滑化は、平均旅行時間によって測られる速達性の向上のみならず、定時性の向上すなわち旅行時間信頼性の向上にも大きく貢献する。その経済便益を適切に計測し、事業評価への導入可能の検討も徐々に行われつつある。しかしながら、道路や公共交通の旅行時間信頼性の改善に伴って交通サービスの利用者の行動がどのように変化するのかについての理論的・実証的知見の蓄積は十分ではない。

本自主研究では、これまで当研究グループで主に取り組んできた旅行時間信頼性の交通経済学的基礎に関する理論研究をさらに深めると同時に、我が国において近年特に整備と蓄積が進展している交通関連ビッグデータ（民間プローブ、公共交通の運行実績、貨物車プローブ、また、近い将来における ETC2.0 データ等）を融合的に活用することで、旅行時間信頼性と利用者行動との関連性を、理論的・実証的に検討することを目的とする。本年度は、特に以下の細目について集中的に取り組んだ。

- (1) Hyperpath に基づく遅刻リスク回避型経路誘導システムの構築と検証
- (2) 路線バスの遅延時間の分布形状に着目した時間信頼性評価
- (3) スケジューリングアプローチによる都市鉄道の時間信頼性評価

キーワード：旅行時間信頼性、利用者行動

Keywords：Travel time reliability, User Behavior